

相生山緑地 オアシスの森くらぶ ニュースレター25号 2005.9.24発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 大館 学
編集長 近藤 真史

定例活動／6月25日(土)

「トンボ池周辺グレードアップ作戦 と焼け跡の整理」

大館 学

森くらぶの小屋の火災から約1ヶ月経過し、燃え残った残材の処理がくらぶにとって頭の痛い宿題となっていました。

残材の処理にあたり、小屋の本来の所有者である森山さんのご家族の了解をいただき、先月5月28日の定例活動日には、焼け跡整理の第一段階として残材を大きく鉄くずと木くずに分別しました。

このうち鉄くずの処理については、天白土木事務所の協力がいただけましたが、残る木くずの撤去を本日(6月25日)行うこととなりました。会員でもある浦田さん(産業廃棄物処理業を営業してみえる)のご協力をいただき、10名ほどの会員がのこぎりで荷台の長さに燃え残りの材木を切断し、軽トラック一台に満載の処理が無事完了しました。この木くずは窯で焼いて炭にするそうです。後は少量の不燃ごみが残るだけで、これは会員が手分けして少

しずつ処分することで意見が一致しました。ご協力の皆様ありがとうございました。



さて、跡片付けのため少々遅れて始まったトンボ池周辺グレードアップ、今年は異常少雨ということだが野の草たちはそんなことお構いなしに伸び放題、手鎌とエンジン草刈機2台がフル回転で午前1時間、午後1時間半程で池の周りと梅の木の辺りまできれいに刈り取られ、吹き抜ける風のさわやかさが心地よく感じられました。

ところで、今回園内の掲示板に貼ってあった定例活動の案内を見て瑞穂区にある陽明小学校の5・6年生、自称昆虫博士の山田君とその友人水谷君がこの辛い草刈作業に飛び入りで参加してくれました。聞けば、恵那市の方で「棚田の学校」に参加し草刈の経験も



▲草刈り作業が完了しサッパリしたトンボ池

あるとのこと。草刈をしながらそこにいるトンボや蝶のさなぎ、池にいるヤゴなどについて語るうちくは専門家はだして、昆虫博士を豪語する自信もさもありなん。我々も大いに勉強させられました。多様性のある森づくりに取り組む我々に強力な仲間が増えた気がします。



▲飛び入り参加の山田くん和水谷くん

小屋の火事とその後



▲火災現場の後片付けに追われるくらぶ員

4月下旬から5月下旬にかけて天白区、南区、緑区などで神社や倉庫などの放火とみられる不審火が立て続けに10数件あり、5月21日にはわがくらぶの道具小屋が火災にあってしまった。小屋

のほとんどが焼け落ちてしまい、中にしまっていたテント、什器、工具など道具全部と、ニュースレターなどくらぶ創設以来の資料の全てを失ってしまった。

一週間後の28日にくらぶ員が出て、火事跡の片付けを行い翌日天白消防署で「罹災証明」をもらうなど残務整理をしていたところ、31日になって新聞報道で容疑者逮捕を知る。早速警察に問い合わせたが、捜査内容は教えられないとのこと。しかし、数日たって天白警察から火事による被害届の提出を求められ、永田さんと調書作成に立ち

会った。何か自分たちが犯人になったような不思議な感覚で、聞き取りやサインが終わったあとぐったりとしてしまった。

被害金額は少なく見積もっても数十万円で、くらぶの活動に一部支障が出ることは避けられない。しかし、のこぎり1本で出来る作業もある。道具はまた徐々にそろえていけばいい。今回の事件で近隣の人達には大きな迷惑をかけてしまったが、今後の活動をとおり地域の信頼を取り戻し、小屋の再建を目指して頑張っていきたい。

(大館 学)